

[事務局作成案]

第 67 回横須賀市文化振興審議会 議事概要

日 時 平成 30 年 10 月 31 日(水)13:30～15:30

場 所 横須賀市消防局庁舎 第 2 会議室

出席者：秋岡委員、石川委員、崎山委員、蛭田委員、山本委員、
吉田（彩）委員、吉田（秀）委員、若江委員

傍聴者：なし

事務局：文化振興課 佐々木課長、松田課長補佐、宇野主任

- ・事務局より、傍聴者なしとの報告があった。
- ・事務局より、定足数についての報告があり、委員定数 10 名のうち 8 名が出席しており、過半数を満たしているため、本審議会が有効に成立している旨の報告があった。
- ・規定により、吉田委員長を議長とし、次第に沿って進行。

【審議事項】

次第 1 委員の紹介

新委員改選後、初めての審議会のため、司会より委員の紹介を行った。

【審議事項】

次第 2 委員長及び委員長職務代理者の選出について

横須賀市文化振興審議会規則（以下、規則という）第 3 条第 1 項に基づき、委員長を委員の互選により推薦を諮ったところ、委員から吉田委員を引き続き推薦する旨の発言があり、異論はなく、吉田彩子委員を委員長とすることに決した。

規定により、吉田委員長を議長とし、次第に沿って進行した。

規則第 3 条第 2 項により委員長が議長となり、委員長職務代理の選出について、規則第 3 条第 3 項に委員長が指名するとなっているので、委員長から山本委員を引き続き指名する旨発言があり、山本詔一委員の了承により決した。

【審議事項】

次第3 平成29年度文化振興基本計画の進捗状況について

事務局から資料3により説明を行った。

○質疑応答

委員 結果報告書(案)となっているが、これは公表するものなのか。この審議会の役割として、この結果報告書の案を審議して、公表するのか。

中を確認したが、同じものがあちこちに出てくる。市民の立場からすると、どこの部が何をやっているのかというよりは、どういう事業がどういう施策の中にあるのかという索引のようなものが良い。9ページからの表がそうだと思うが、同じものが色々なところに出てくるので、事業がどれにあたるのかということが分かると良い。

29年度終了した時点で見直しを行うとしているが、30年度になってどうなっているのか。日本遺産に指定されている旧軍4市で色々やっているが、それは計画のどのあたりに出てくるのか。また別表などを付けるのか。

事務局 結果報告書(案)は審議会で審議していただいた後に、その結果を各部署に伝えています。

同じものが出ているものの方向性については、文化振興基本計画のものの体系が、はぐくむ、つたえる、ひろげるという3つの施策の展開を行うものとして、はぐくむは文化の担い手の育成、つたえるは次世代への継承、ひろげるは文化による交流の推進という、この計画を策定したときに、この3つの方向性で行われるとしている。その中で複数にまたがるようなものについては、同じ事業が掲載されており、そこは見づらいかもしいないが、現状はそのようにまとめている。

今年度行うものについては、今後のものは実施計画が新しく改訂されたが、今の時点ではその上の基本計画については変更は特にないため、この中で事業としてさらに増やすものについては、進行管理の中で増やしていくことが基本になる。今の時点では、事務局としては大幅に変更する必要がないと考えている。それについてもご意見をいただきたい。

日本遺産については、次の議題でも話があるが、ルートミュージアム構想の中で日本遺産を活用したルートミュージアムというかたちで推進をしていくので、その中でも紹介ができる。

委員 報告書(案)は公表するということか。

[事務局作成案]

- 事務局 審議会のそのものの審議自体が公開になっているので、公表する。
- 委員 それは理解した。
〇〇ガイドツアーを行うというのがいたるところに多く出てきている。これは重要な事業だと思うが、市民としては、どこの何課がやっているのかということではなく、どういう事業をやっているかに興味がある。色々なところ載っているのはいいが、全部は覚えていられない。日本遺産はいろいろなことをやっているの、見直しの中で入れるか、もしくは表などでいいので出してもらった方が、市で新しい取り組みをしていることが分かって良い。
- 委員 案が取れていないということであれば、2ページ目3(2)は「第3章—2施策の考え方」と書いてあり、次のページをめくると「第3章—2施策の方向の考え方」と書いてあって表現の仕方が違うので、読んでいる側からすると合っている方が良い。
その下の「当初予定を上回った」という表現が出てきていて、よく分からないのは、当初というのは年度の当初なのか、あるいは期間の当初なのかが分かりづらい。
また、評価でSが1つあったので見ると、「生涯学習の機会の提供」で最初に設定した講座数を超えたため、Sになっているが、毎年実績は減ってきていて、当初の目標の設定の仕方によって大分見方が変わってくる。このSやAは担当部署の自己評価なのか、それとも総合評価のようなものを行っているのか。今後分かるようにしていく必要がある。
- 事務局 SやAの評価は、基本的に各部署からあがってきた評価を、必要に応じて補正しながらやっているため、全てそのままというわけではない。こちらで全体のバランスを見たいうえで、各部署と話し合いをした結果、評価を変えるものもある。
生涯学習のSについては、目標の50講座についても協議する必要があるかもしれない。
- 委員 評価について、前年度のAといのは、ほとんどAになっていて、以前も話題になった。もう少し全体像が分かるような評価があって、個別のものがあると良いが、伝わり方が大ざっぱになっている。
- 委員 もう少し具体的な表現にしてほしい。例えば、67ページに「市民文化資産の指定数」とある。ずっと23件横ばいになっている。

[事務局作成案]

数を維持することは大事だが、数の表現が分かりづらい。

- 事務局 市民文化資産に関しては、今ある件数が 23 件で、たとえば新たに 1 件追加したら 24 件となっていく。
- 委員 そういう意味では維持してく、だから横ばいとなる。維持するというのが、もう少し具体的な表現にしてほしい。24 件あったのに 23 件になっているのは誤解を生む。
- 委員 市民文化資産が減ったということか。
- 事務局 市民文化資産が市の指定文化財の元になっている。そのため、市民文化資産が市の指定文化財になった場合には件数が減ってしまうので、維持することが困難になっている。
最近では西来寺の梵鐘が市の指定文化財に指定され、それに伴い市民文化資産から解除されている。過去にはペリー上陸記念碑なども市の指定文化財になったため、解除されている。
- 委員 進行管理結果報告が 10 月に出ているが、遅いという指摘が前回もあった。これは（案）が取れて、公開され、配架されるだろうが、一生懸命やっているのに評価されないのではないか。今の梵鐘の話も 1 件減った経緯が分からない。
- 委員 減ったのではなく、1 つがランクアップしている。減っているように見えてしまうので、良くなっているのが分かるようにということである。
- 委員 2 ページの 3 の（4）として、評価方法を具体的に入れてはどうか。
例えば、69 ページの 1 文化情報の収集および提供の 1 番下の「生涯学習センターにおける生涯学習にかかる相談件数」は平成 28 年度の 53 件から 29 年度は 29 件に減っているが、方向性は向上となっている。全部でないにしても、少し理由を記載した方が分かりやすい。
- 事務局 個別に確認させていただいて、コメントを掲載するように考えたい。
- 委員 例えばカレーフェスティバルなど、人数が前年度から 5,000 人とかなり大きく減っている。来場者の集計方法が外部からは分かりづらい。減ったものは天気などの要因もあるため、その辺りも分かると良い。
また終わってしまったものも、なぜ実施されなくなったのか分

[事務局作成案]

かるように記載されると良い。

- 事務局 変化の要因があったものに関しては、どういう理由があったのか分かるように表記したい。
- 委員 イベントの来場者数というのは、どのように計測しているのか。
- 事務局 全体を一人一人数えているのではなく、ある一定の面積にどのくらいの人がいたかをカウントしている。
- 委員 以前カレーフエスティバルに行ったが、時間帯によって多いときと、そうでないときがある。
入口でカウントしているなど、計測方法を少し表記するだけでも信用性が出てくる。他のみこしパレードなどにしても、カウントの仕方の表記があった方が良い。
- 委員 報告書を出すのが遅い。もう少し早い時期にやらないと何も生きてこない。30年度が半分過ぎた時期に29年度のものを出すのはどうなのかと思っている。
他の委員の方もおっしゃっていたが、毎年同じような議論をしている。何か違う形で報告書を出せないか考えていかないといけない。もっと明確に分かりやすい形で出していかないといけない。
- 委員 各課から結果があがってきて、こういう形でまとめていると、この時期になってしまうのか。
- 事務局 昨年度も指摘があったが、決算議会の関係があり、以前に比べて時期が遅くなっているため現在は9月下旬に議会へ報告している。今回の開催が10月下旬で遅いのは確かだが、9月下旬より早く開催することは難しい。
- 委員 各課からあがってきた結果を議会にかけているのであれば、早めるというのは難しいのだろう。
- 事務局 議会への報告より先に出すことができない状況である。
- 委員 前年度には7月ごろに開催をしないと話をしていた。
- 事務局 議会の日程等を確認したが、当審議会が公開なこともあり、議会よりも先に出すことは問題であるため、開催が遅くなってしまった。

[事務局作成案]

- 委員 検討いただいた結果と受け止めたい。
- 委員 この表が毎年横に増えていくのを見て、同じものが平行移動して、5年間変わらなくていいのか。この先も続いていくなら、もう少し変わっていいのではと気になっている。
先ほど伺ったところでは、29年度までで市の実施計画が終了し、市長も変わられた。今後、基本計画に関しては変更ないとのことだが、具体的な中身の入れ替えは、30年度に計画しているなどの流れはあるのか。
- 事務局 実施計画が変更しているため、冒頭で事務局から説明した新たな事業がいくつかある。それについては、次年度の結果報告について掲載していきたい。特に街なかミュージックや、2020年度に開館するルートミュージアムは準備があるので、この表の中で増やすことを考えていきたい。
ただ、文化振興基本計画の中にある3つの枠組みそのものは大きく変わらないため、その事業をどこに入れ込んでいくかについて話したい。
なお、本日欠席している委員から意見があったので、資料を配布させていただきたい。
(資料配布)
委員から姉妹都市の国際交流関係について質問があった。エコールポリテクニクのインターンの受け入れについて、どこで何を具体的にどのようなものかという質問があった。届いたのが本日だったため、分かる範囲での回答になるが、エコールポリテクニクのインターンの受け入れは国際交流課がメインですすめているものであり、本市との交流については平成26年度から依頼を受けて開始している。平成26・28・29年度に受け入れをしており、さらにブレスト市との職員交流でも同校の視察を行っている。また平成27年11月に横須賀製鉄所創設150周年記念のヴェルニー・小栗祭や講演会、演奏会も行ったが、その際にエコールポリテクニクの学長や副学長が出席している。提案いただいたものが1～2ページにあり、その中でいくつか補足をすると、(1)はご提案があったことを受け止めさせていただきたい。(2)の地域の身近な歴史や文化の継承で、城ヶ島灯台や野島灯台、横浜の外人墓地など、横須賀製鉄所に関係するものを実際に巡ってみたいかがという提案について、製鉄所開設150周年の際にパネル展で製鉄所の功績として、城ヶ島灯台や野島灯台が造られたことは市民に周知している。これに加え、身近な歴史や文化の継承ということで、市内中心ではあるが、周遊ツアーで、今後紹介できるような機会を設けて考えていきたい。(3)の姉妹都市との交換学生数に関して、ブレスト市とのフランス語の勉強会という提案もいただいた。確認し

[事務局作成案]

たが、現在フランス語の勉強会は行われていないとのことだった。英語、韓国語、中国語については、国際交流協会で行っている。フランス語は講師等の準備ができない可能性がある。また、市立高校のクラブ活動での言語につて、総合高校では単位制になっていて、フランス語の授業が行われており、選択科目として受けられるようになっている。クラブ活動については、英語はあるが、多言語はまだないという状況である。

委員 56 ページの民泊体験は、色々な地域の中学校がきているが、選択基準は何か？

事務局 おそらく話がきたものに関して相談させていただいていると思われる。

委員 姉妹都市の学校なのか。

事務局 姉妹都市の学校ではない。おそらく個別で来たものと思われる。

【審議事項】

次第4 ルートミュージアム（軍港資料館）の整備について

事務局から資料4により説明を行った。

○質疑応答

委員 ルートミュージアムなので、ルートというのと、点と点があって、それを結んで線にすることが重要である。この資料を見ていると、中核拠点、サテライトという、あくまでも点なので、ルートミュージアムとは、点と点を結んだルートを歩いて動いてもらうことによって横須賀の雰囲気味わってもらいたいものだと思う。是非、点と点を結ぶルートを考えていただきたい。具体的には、横須賀という、谷戸があって谷戸と谷戸を結ぶところに坂がある。坂がないところはトンネルがある。これは、呉や佐世保とは違う雰囲気だと思うので是非ルートを重視したことをどこかに入れてもらうのも良い。特に4ページにある東京湾側は浦賀道も通っているの、点と点を結ぶルートになる。坂があってトンネルがあって谷戸がある。そういったこともやってもらえると良い。坂は、自転車だとつらいし危ないし道も狭いので、歩くというのも項目の一つに入れてもらうのも良いと思う。

次に、これを造るこれを造ると書いてあるが、横須賀の文化、景観というのをどこかに入れてもらうと良い。他市から来て横

[事務局作成案]

須賀で食べて飲んでもらう。たとえばソフトフランスパンなど、フランス繋がりで入れたり、中央酒場のような飲み屋も入れたり、やはり他市から来た人にとって、単に見るだけではなくて横須賀の生活や文化を味わえるのが良い。景観という観点でみた場合、谷戸や坂、そういうところは横浜と同じような石垣があるというもののひとつの景観。その拠点以外に追浜、長浦なども戦前の建物がある。民間のものなので拠点にはならないが、見たときに横須賀の雰囲気味わえる、実は歴史的建造物がある、それをどこかに入れてもらえると、市民全体として横須賀にはそういう建造物も重要だという雰囲気になるので、建造物が解体されるのを防げると思う。最後に6ページ。言葉としてこういう言葉があるのかどうか。バスツアー造成。これは旅行会社として造成と言うのか。

事務局

バスツアーで新たなルートをバスのツアーとして使うという意味で造成というのを使っている。

また、ルートミュージアムの資料そのものについては、整備として点と線についてあったけれども、まずは点というのがこういう形でということを示し、線についてはこれから2020年までに色々なものを考えていきたい。例えば歴史に関するもので線をつなぐとすれば、横須賀市の特徴としては東京湾要塞などが非常に多いので、そういうものを巡ってもらうコースであるとか、かなりマニアックになるが、先ほどもあったようにトンネルを含めて巡るコースというものなどもそうであるし、三笠などの通信の歴史、そういうものも含めて歴史的な経過を巡ることができるもの。また、食文化も含めて、観光的な要素が強くなるが、船で巡ってみたり食べ物を食べたりといったこともある。ドブ板通りも文化の中のひとつだと思うが、そういうのを含めて歴史を感じながら、あまり歴史に触れることのなかった方でもさらに触れられるようなもので、少しでもお客さんを増やせるようなものを造成していくのがこれからの課題である。パンの歴史の話もあったが、確かに横須賀製鉄所でパンの窯が作られ、ソフトフランス・フランスパンではなく柔らかいフランスパンは横須賀独自の文化である。今特に観光協会が横須賀のパンということでかなりイベントをしていて午前中には売り切れるほど人気があり、そこから中央酒場などにも寄ってもらうルートになっていければと思っている。また、景観については、ルートミュージアムのルートとして設定することは、個人宅とかの関係もあるのでなかなかできないだろうとは思いますが、途中の線の中で紹介することはできる。たとえば、上町の看板建築なども、そういう中のひとつだと思う。そういう形での紹介というのはできる。

[事務局作成案]

- 委員 「海と船が見える坂道」マップをまとめ、坂道とソフトフラスパンや立ち飲み居酒屋などの文化の組み合わせの必要性をまとめている。さらには、それらを組み合わせた横須賀の雰囲気満喫できるルート提案をしているので、是非見ていただきたい。
- 委員 膨大な考え方のコースができる。基本的な考えはこの通りで良いが、芸術文化や文学、軍関係など、ジャンルでいうと膨大なルートができあがってくる。ある程度そういうことを構想されているのか。
また、記念艦三笠だけでも相当な数が図書館のコーナーがある。そういったところの資料なども全て入ってくるのか。
- 事務局 近代歴史遺産を活用してというところで、そういう意味では入ってくることはあるが、そもそもは軍港資料館を作るところから始まっているため、現在はこの関係のものを中心に近代遺産、サテライトと書いた。それを繋いでいくルートを考えている。その目的は何かというと、今残されている歴史遺産に触れて市民の方にも市外の方にも、横須賀の歴史や横須賀の街を知ってもらうということが、大きな目的である。それと共に集客促進と言っているので、景観とか食文化を使って街を巡って、街の中を楽しんで、お金を使ってもらって観光的要素とその二つが主な目的としてある。
まずは経緯からいくと、歴史遺産だけではないが、そこにはサテライトを中心にしたものを、近代遺産、日本遺産も含めて、そういうものに特化したルートをまずは進めていく。そのルートの中に、文学などが入ってきて、そのルートがだんだん太く、賑やかになっていく。そういうところで横須賀を知ってもらって、お金を使って楽しんでもらうというのが達成されるのであれば、そういう形にいずれは進化していくものであろうと思っている。
- 委員 坂本龍馬は軍とは関係ない。佐久間象山は浦賀に来ているようである。そういうことを考えていくと明治維新の時の軍、海軍というのでおさえていくのか。自衛隊などは資料がたくさんあって、たとえば乃木将軍がここにやってきたなど、そういう話に発展していく。そういうところまでやっていかないと体験ツアーというのは面白さがない。構想としては良い。
- 事務局 軍だけではなくて、何でもかんでも繋いでいくわけではないが、ありとあらゆるものを盛り込んでいってしまうと多すぎてしまう。当初の目的は今あるサテライトを繋いで横須賀の歴史がわかるところを実物を見ながら周ってもらっていただくことである。そして楽しみがルートの中にどんどん増えていけば追加していただく

[事務局作成案]

うし、エリアも決まっていく。ルートも今いくつか想定しているが、私たちが作ったルートを歩いていく方もいらっしゃるし、好きな方は自分でルート作っていく方もいらっしゃるの、どんどん広がっていけばいいと思っている。

委員 ヴェルニー公園に行くとき軍艦を一つ一つチェックして、写真を撮っている人がいる。広重の描いた絵を描いている人や、大砲だけチェックしている人もいたり、マニアックな人がいる。研究者的な人もいて、全国のマニアックな人を集める力がある。

委員 広範囲でたくさんあるので、私のように歴史に素人だと何をどういうふうに楽しめるかという、その遺物に関わる話を聞いていくことだと思う。その場合ガイドをしてくれる方など、マンパワーというものが導入されないと物があっても、ただ普通の汚いレンガだとなしかならない。それがうまくどういうものか分かるようなガイドをしてくれる方が大切になるなと思った。自衛隊などの話もあったが、以前ポーツマスに行った時に、ガイドをしたくて退役軍人の方々が手ぐすね引いていた。ガイドはいるが、退役軍人の方が熱っぽくこんなこと知っているか、という話を聞くのが楽しかった。横須賀も歴史ファンの方が多くてガイドの知識を持った方もいて、エリア毎に勉強会を開いているので、そういう方々がうまく連携してガイドにも繋がっていけばいいと思ったが、報告書を見ると猿島のガイドの育成について、ニーズが満たせず未実施になっていたの、下火になってきているのかと思った。これを機に、市民の中でも歴史遺産のファンの方々が活躍できる場もひとつ造成していければ、この施設がただの施設ではなくなるのではないかなと思う。

委員 生涯学習センターの市民大学などが色々な横須賀の特色などの講座を一番やっている。そこから巣立っている方はたくさんいる。そこからガイドボランティアになっている方がいるので、その方たちを人材バンクなどに登録して派遣すれば、文化振興課が街づくり地域づくりに発展していくなどの力にかなりなっていくと思う。そして生涯学習センターにも人が来る。是非つなげていただきたい。そして、美術館。全部人である。人がどんどん作っていく。そのため、その計画のプランニングの中に入れて込んでいく。ただ入り方が難しい。

委員 街の中ですでにやられているガイドさんがかなり成長してきていて、かなり面白く話せるようになっている。猿島ガイドは、去年はなかったが、今年は募集して若い女性も入ってきている。比較的うまくそういうのをやっているのが三笠で、海上自衛隊

[事務局作成案]

のOBをうまく使って説明をしている。少し違う感じでやるのが魅力的である。その辺のところをうまくガイドを応用していかなければいけないだろう。皆さんが言われている通り、魅力的な話をしなければならぬ。ありとあらゆるものに歴史があり、それが横須賀に関わってくる良いものがたくさんある。そのため、決まったポイントだけではなく、各ポイントを話せるガイドを養成する。軍港めぐりも若い方たちがかなり支えてくれている。そういう方たちに、少しだけ話をすると、たとえば海上自衛隊の船と米海軍の船の違いは船を見ただけでわかる。同じグレーでも、米海軍は白っぽいグレーで、黒いグレーが海上自衛隊。これは地理的な問題で、出港していったときに黒潮が流れているので少し黒いグレーの方がわかりにくので日本という話をするとすぐに取り入れる。今色々な方たちが興味を持ち始めているので、そういう方たちを大事にしながらこのルートミュージアムを育てていこうと思っている。色々な面からやっていくのが面白い。これはやらないのではなく、色々なことをやっていくのが面白い。

委員 質問と提案があり、一つ目は、これを行うには逗子や葉山は無視できない地理であるということ。逗子や葉山と横須賀は連携をとられているかどうか。二つ目は、これからは車いすとか横須賀市も高齢化のため、介護タクシーなどの手配はどのような取り組みになっているのか。車いすの貸し出しとか、東京都はかなり進んでいるけれども、横須賀市は見たことない。提案としては、オープンした時に市民の方を募ってモニターツアーをして意見を聞くのが良いのではないかと。

事務局 一つ目の逗子、葉山との連携は、今の時点では行政としてはしていない。今、第二海堡が有名だが、富津市になっているので、それも含めて考えていきたい。逗子、葉山に関してはまだ把握していないが、そういうものがあればルートミュージアムの厚みも増していくので関わっていきたい。二つ目の介護タクシー、車いすの件は、議会でもあったのが、若い家族で来られた時のおむつ替えの場所などをルートの中で紹介すると、安心して来られるのではないかとという意見である。同様だと思うので、色々な方が来やすいサービスとして、進めて行かなければと思っています。モニターツアーに関しては、事前にするのが良いかもしれない。ガイダンスセンターのオープンは2020年の11月だが、それよりも前にそのようなことができると思えば盛り上げることもできるし、反省点を踏まえて次に繋げていけると思う。

委員 市民レベルではそういう盛り上がりが出ていて、自分たちでルートを作っていこうとしている。また、逗子、葉山だけではな

[事務局作成案]

くて横浜市金沢区、三浦市も含めて、実際には昭和 18 年時点の横須賀の大きさ、金沢は入っていないが、そこまで入れた横須賀の海軍が持っているエリアに網をかけないといけないだろうと思ってやっている。

委員 テレビでもそうだが、東京から降りてくると逗子ルートを紹介していて、もったいない。

委員 逗子、葉山は勤めていた軍の上の人たちが住んでいた場所である。東郷平八郎は逗子に住んでいたから、そういう意味では全部含めていく。

委員 海軍住宅というのもその辺にあったのか。

委員 逗子高校は跡地に建っている。そういう意味では全部同じレベルで考えていかなければいけないなと思っている。

委員 市外の若い子たちに見に来てもらうときに、軍港という言葉で分かるのかと思っている。下駄箱とか草履袋とかは通じない。イメージとして行ってみたいと思うような、若い子向けのイメージも必要かと思う。(仮称)軍港資料館からルートミュージアムになっているが、分かりづらく、ルートって何というイメージと、資料館、ミュージアムというひとつの建物というイメージが強いので、そうではないということを宣伝しないと、外から若い子を呼ぶのは難しいかと思う。委託業者からのプレゼンはどうあったのか。

事務局 資料の 6 ページにある、VR のコンテンツをこれから作って行くところで業者を決定した。ここはあくまでもコンテンツを作るため、テーマがあって、今年度が横須賀製鉄所、来年度が浦賀と久里浜のペリー来航のテーマである。現地に行ってGoogle をかけたりスマホやタブレットを見たりすると、その時代の景色が見られる。そこに行かないとそれを見ることができないというように作っていかうと思っている。テーマとか、どういう形で作るかはこちらが示したので、それに関する進め方とか作り方とかそういうのを総体的にプレゼンされた。そもそもルートミュージアムという言葉は今は、ルートミュージアム事業と言って、概念としての言葉で私たちは仕事として使っているが、宣伝とかの時には色々考えて使っていかなければならないと思っている。

委員 ルートというと国道を連想してしまい、国道沿いに何かあるのかと思ってしまう。これしかないのかというイメージである。

[事務局作成案]

統一した看板があつてそれに沿っていくと着くというのがあると良い。何もないと分からないという心配がある。

委員 軍港という言葉だが、逆に若い子たちには艦隊コレクションというゲームで、三笠にも大勢の若い人が来ている。そのため、そこはあまり心配ないかと思う。また、ルートミュージアムはエコミュージアムからとって、三浦半島全体のひとつの軍港資料館として考えていこうというものである。点として見るところはたくさんあるが、それをまとめることはできないし、一つ屋根の中にすることができないのなら、三浦半島全体に屋根をかけてやってみたら面白いのではないか。16号線沿いを走りながらやってみる。その前には東京湾側、134号線相模湾側違う風景がある。それをうまく使ったものができるといいなと思っている。

委員 三浦半島の行政区分を除いて、こういう観光産業ものしか横須賀は生きる道は無いと思っている。本当に本腰を入れて行政が関わって市民を巻き込んで横須賀をもっと活性化する術はこのことだと思っている。あとひとつ、横須賀駅からスタートになっているが、横須賀線が大体昼間は逗子止まりで、逗子・久里浜間の運行状況が悪い。ピストン運行を提案して本数を増やせないかともいつも思っているが、行政からも提案してもいいと思う。横須賀に注目を集めようとしたときに、横須賀駅に降りた感じは、軍港があつてどこか全然違うところに来たという雰囲気があるので、やはり京浜急行の横須賀中央駅に降りるのではなくて、JR横須賀駅、久里浜駅で降りた時のなんとも言えない雰囲気というのは他の都市では味わえない雰囲気なので、横須賀線のルートをもう少し充実させないといけない。そのためにも、もう少し市もJRへ要請をして良いと思っている。

事務局 横須賀駅を利用して来る人が増えることによってJRも本数を増やして行くかと思っている。ルートミュージアムと話は違いますが、文化スポーツ観光部としても、そういう部分でも横須賀に大勢の人が来やすくなる、横須賀の人も住みやすくなるという点では大事なことだと思う。京急とは、街づくりについて、そのような会議をしており、要望や募集などを行っている。JRに関しては、私も把握してはいないが、横須賀の主要交通なので、そういう機会がないのであれば、行政の方から、鉄道会社に話をしなければいけないなと思うので、改めて、文化振興審議会です話を進めていかなければと思う。

委員 駅の放送で、逗子止まりの電車が連結してその先に行くということと言わない。逗子止まりの電車はそこで止まって、次の電

[事務局作成案]

車が来るまで乗れないとってしまう。そこのアナウンスが不親切である。そのため、横須賀が僻地に思われてしまう。逗子は近く感じるのに、そこから15分の横須賀に1日ばかりで来たと言われる。

事務局 しっかりと伺い、話をするようにしたい。

委員 逗子は連結が10分もかかる。鎌倉で観光客が多く降り、逗子で少し降りると、その先は空いている。市役所から雰囲気を変えていってほしい。

事務局 ぜひ働きかけたいと思っている。

【審議事項】

次第5 その他について

「近代歴史遺産活用事業パネル展」の開催について、説明・報告を行った。

質疑応答は特になく、審議会は終了した。